

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	①-13	実施計画番号	79	事業開始年度	26
事務事業名	災害時避難行動支援事業			事業終了年度	
担当課名	福祉課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	災害対策基本法		関連事務事業		
背景や経緯等	避難行動要支援者名簿を作成し、避難支援に必要な対象者の情報を定期的に更新の上、関係機関で共有する。				
事務事業の目的	災害時において、実行性のある避難支援を行う。				
実施状況	避難行動要支援者名簿を作成し、消防本部と町内会長に配布している。 避難行動要支援の対象者数は約8,000人で、そのうち関係機関や地域への情報提供に同意する者は3割程度の2,400人で見込んでいたが、2,066人と低い状況となっている。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	2	2
	活動日数(日)	60	60	60
	人件費(千円)	2,160	4,320	4,320
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)		3	
	活動日数(日)		50	
臨時職員	人件費(千円)	0	975	0

## 【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	0	0	0

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		平常時の情報提供同意者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	0	2,066	3,000
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		平常時の情報提供同意者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	同意者数/対象者の3割	人	目標値		2,400	3,000
			実績値		2,066	3,000
			達成度(%)		86%	100%
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">災害対策基本法で市町村に名簿の作成、管理が義務付けられている</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	災害対策基本法で市町村に名簿の作成、管理が義務付けられている	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
災害対策基本法で市町村に名簿の作成、管理が義務付けられている										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平常時の情報提供同意者を増やしていく必要がある</td> </tr> </table>	成果向上の余地	2 / 6	平常時の情報提供同意者を増やしていく必要がある	
	成果向上の余地	2 / 6								
	平常時の情報提供同意者を増やしていく必要がある									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	4					
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">コストに無駄はなく、民間委託はできない</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	コストに無駄はなく、民間委託はできない	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	コストに無駄はなく、民間委託はできない									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">特定の個人・団体を対象としていないため、受益の偏りはない</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	特定の個人・団体を対象としていないため、受益の偏りはない	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
特定の個人・団体を対象としていないため、受益の偏りはない										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
<b>現在の適性</b>					<b>18 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>2 / 20</b>			

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

有効性を改善して継続

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

災害発生時に備え、避難をする際に支援や配慮を必要とする高齢者や障害者等の支援体制の整備に努める。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

避難行動要支援者名簿への登録の呼びかけと平常時における地域での名簿活用の周知に努める。